

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

平成27年 1月 日

協議会名: 広陵町地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通ネットワーク計画等の 計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【調査事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>広陵町の現状の整理、バス利用実態調査(住民アンケート調査、広陵元気号利用者アンケート調査)の実施により課題を整理するとともに、計画の目標と方針、計画に基づいて実施する事業について、協議会の意見を踏まえてとりまとめを行っている。</p> <p>広陵元気号については、現在無料で運行しているが、これを有料化し、ルート、運行便数等の改善を行うことにより、まちづくりの推進、広域連携、町民の利便性向上を図るものとし、路線バスを含めたルート見直し案を作成している。</p>		<p>調査事業は、町民の意見把握を行いながら協議会での協議を踏まえて実施しており、適正に本事業を実施した。</p>	<p>【地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)】 平成28年度に、広陵元気号を中心とした再編事業を実施する。</p>

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年 1月 日

協議会名:	広陵町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>広陵町の公共交通は、町唯一の鉄道である近鉄田原本線の箸尾駅、バス路線としては、広陵町の東部を南北に縦断する高田・平端線、中央部を通過する高田・竹取公園行き、西部都市部を走る王寺・五位堂駅行き、五位堂駅・馬見丘陵公園行き、五位堂駅・馬見南2丁目行きがありました。このうち、東部地区を走る唯一の路線である高田・平端線が利用者の減少によって平成21年2月末で休止となり、これ以前にも、南東部地域の路線バス廃止により、在来地区の交通弱者及び高齢者の交通手段がなくなり、主にこの路線沿いの地域は、集落間が離れ、目的地まで移動する交通手段の確保が最重要課題となりました。こうしたなか、廃止路線のバス運行休止路線地域を中心として、平成21年4月から、コミュニティバス「広陵元気号」の運行を開始していますが、更なる利便性の向上を望む声が多く寄せられています。</p> <p>公共交通におけるサービス水準の向上、有料化による持続可能な公共交通の確保、路線バスとの連携による新公共交通システムの構築を本町における喫緊の課題と捉え、生活交通ネットワーク計画を策定しています。</p> <p>本町の公共交通については、「まちづくりとの連携により、日常生活や観光利用に必要な公共交通を確保し、定住促進・地域の活性化を目指す」ことにしています。</p>